

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名： 佐 伯 市

項 目	現状と課題	取 組	目 標	取組状況と実績	自己評価		次年度対応策
【介護予防把握事業】 ○状態把握チェック事業	本市では、平成28年度から介護予防事業を地域支援事業に位置付け、事業を実施しています。しかし、介護予防事業に参加した高齢者は一時的に身体機能の回復が見られますが、終了後に機能を維持することができなくなるケースがあり、継続した活動の場が必要です。また、介護予防の重要性についての普及啓発や、地域のリーダーとなる人材の育成とともに、高齢者が居住する地域で、継続して介護予防活動に参加できる場の確保が必要です。	サロン等の通いの場の参加者から収集したチェックリストの情報等の活用により、認知機能や上肢・下肢機能等の低下等により支援を必要とする高齢者を把握し、介護予防事業へつなげ、対象者の課題解決を図ります。	項目：健康状態の把握 目標指数：把握人数 目標値 令和3年度：630人 令和4年度：680人 令和5年度：730人	項目：健康状態の把握 目標指数：把握人数 実績値 令和3年度：694人 令和4年度：1,182人 令和5年度：1,237人	○	令和4年度から茶の間において出前教室を実施している。コロナ禍でフレイルが目目される中、茶の間やサロン・住民主体の通いの場等でフレイルチェックシートを積極的に活用し、前年度よりも多くの方の状態把握が行うことができた。	令和6年度も引き続きフレイルチェックシートを活用し、通いの場等における状態把握に取り組む。また、介護予防・生活支援サービスやその他の一般介護予防事業と連動する仕組みづくりに活用を図る。
【介護予防普及啓発事業】 ○おげんき広場		介護保険サービスを利用していない65歳以上の方で、MCI(軽度認知障害)や運動面の機能低下が認められる人に対して、有酸素運動や脳トレーニング、体力測定や脳の健康チェック等認知予防や運動機能向上を目的としたサービスを実施します。また、定期的に対象者の状態について評価を行い、事業の効果を検証します。	項目：おげんき広場 目標指数：実施地域数 目標値 令和3年度：8地区 令和4年度：8地区 令和5年度：8地区	項目：おげんき広場 目標指数：実施地域数 実績値 令和3年度：8地区 令和4年度：7地区 令和5年度：6地区		第2・3圏域の拡大を図ったが、本匠・弥生地区はおげんき広場の開催も困難となり休止となった。普及啓発も行ったが、新規拡大にはつながらなかった。利用者の減少に伴い、事業所からは、このままでは事業継続が困難との意見もでているため、経年評価を行い、本事業の課題を明確にしたうえで事業全体として見直しが必要な状況にある。	事業評価から把握された課題を実施事業所へ共有を行う。年度始めに「おげんき広場意見交換会」を開催し、事業所の現状と課題の把握、事業全体の見直しを検討する。また、対象者の身体状況等に合わせて、介護予防・生活支援サービスやその他の一般介護予防事業及び地区社協の事業等とすみ分けながら参加を促す。
○サロン等介護予防事業		サロン等で人とのふれあいの場を広げ、閉じこもりの予防と日頃からの声かけにつなげるとともに、介護予防体操・健康講和等を実施します。	項目：ふれあいサロン(支援型) 目標指数：開催箇所数、参加人数 目標値 令和3年度：90箇所、1,000人 令和4年度：90箇所、1,000人 令和5年度：90箇所、1,000人 項目：ふれあいサロン(自主型) 目標指数：開催箇所数、参加人数 目標値 令和3年度：60箇所、1,100人 令和4年度：50箇所、900人 令和5年度：40箇所、700人	項目：ふれあいサロン(支援型) 目標指数：開催回数、参加人数 実績値 令和3年度：91箇所、991人 令和4年度：93箇所、901人 令和5年度：92箇所、901人 項目：ふれあいサロン(自主型) 目標指数：開催箇所数、参加人数 実績値 令和3年度：59箇所、1,090人 令和4年度：54箇所、914人 令和5年度：53箇所、817人	○	タオル体操やリズム体操、体温血圧測定など各種活動を実施することができた。また、希望する団体において体力測定を実施し、必要に応じて介護予防・生活支援サービスにつなげることができた。	引き続き、事業委託先の佐伯市社会福祉協議会と連携を図りながら、事業を継続する。
○地区栄養教室(高齢者栄養教室)		地域の栄養教室を食生活改善推進協議会に委託し、高血圧の発症・重症化の予防となるように、調理教室・減塩指導等の栄養指導を行います。	項目：高齢者栄養教室 目標指数：開催回数、参加人数 目標値 令和3年度：18回、290人 令和4年度：18回、290人 令和5年度：18回、290人	項目：高齢者栄養教室(訪問実施含む) 目標指数：開催回数、参加人数 実績値 令和3年度：6回、59人(64人) 令和4年度：5回、50人(168人) 令和5年度：7回、80人(81人) ※()内は訪問による実施者数		コロナ禍以前とほぼ同じ環境になったものの、目標値に対して不十分な実績値となった。近年の急激な会員の減少により、実施できなくなった地区もある。	令和6年度は目標の開催回数を15回に変更した。市民の高齢化は今後も進むと思われるため、高齢期の栄養指導は必要である。継続可能な方法で事業を続けていく。
○介護予防講演会		介護保険の理念である「自立支援」を住民が認識し、自らが介護予防に取り組む必要性や介護予防の方法や早期発見のポイントの学習の機会として、介護予防講演会を日常生活圏域ごとに年1回実施します。	項目：介護予防講演会 目標指数：開催回数、参加人数 目標値 令和3年度：3回、200人 令和4年度：3回、200人 令和5年度：3回、200人	項目：介護予防講演会 目標指数：開催回数、参加人数 実績値 令和3年度：0回、0人 令和4年度：2回、111人 令和5年度：2回、101人	△	開催地区の関係者(振興局・社協支部・SC・委託包括・民生委員児童委員・区長会・学校等)に事前の打合せの段階から協力を依頼し、多くの住民の参加を得た。また、ケーブルテレビや市報を活用して介護予防の普及啓発を図った。ケーブルテレビ等を視聴した市民から総合事業の利用希望や問合わせがあり、情報発信による効果もみられたが、開催数は2回で参加人数も目標を下回った。	地域のサービス等の提供体制(フォーマル・インフォーマル等)が困難になっている地区を中心に令和6年度も集団での講演会を地域コミュニティ事業と共催で開催予定。第1圏域：市内(和楽)第2圏域：弥生地区第3圏域：一巡(次年度計画を検討)引き続き広報等を活用した普及啓発もシリーズ化して継続する。
【地域介護予防活動支援事業】 ○食生活改善推進員人材育成及び食生活改善推進協議会育成事業		食生活改善推進協議会として、各地区で栄養教室が開催できるように、定期的な学習会を支援します。また、推進員が65歳以上の市民を対象とした健康づくりのための教室(講和・調理実習)の開催の支援を行います。	項目：学習会の開催 目標指数：開催回数、参加人数 目標値 令和3年度：50回、174人 令和4年度：50回、180人 令和5年度：50回、185人	項目：学習会の開催 目標指数：開催回数、参加人数 実績値 令和3年度：30回、434人 令和4年度：33回、483人 令和5年度：33回、436人		会食が再開し、学習会を予定通り実施できた。コロナ禍で中止していた他市町村との交流会も再開できた。	様々な知識の習得に向け栄養士・保健師による講話だけでなく、食育人材バンクや防災アドバイザー等による講話も取り入れる予定としている。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名： 佐 伯 市

項 目	現状と課題	取 組	目 標	取組状況と実績	自己評価		次年度対応策
○介護予防サポーター養成講座		虚弱・閉じこもりがちな高齢者への声かけや、介護予防体操等の普及・啓発ができる地域にねざした活動を行う人材の養成講座を実施します。また、養成講座終了後も活動する上で必要な知識を深めることができるステップアップ講座を実施し、介護予防活動の人材として通いの場や各種事業の支援等、活動の場をひろげる体制づくりを行います。	項目：介護予防サポーター養成研修 目標指数：開催回数（基礎、実践） 目標値 令和3年度：3回、4回 令和4年度：3回、4回 令和5年度：3回、4回 項目：介護予防サポータースキルアップ研修 目標指数：開催回数 目標値 令和3年度：4回 令和4年度：4回 令和5年度：4回 項目：介護予防サポーター登録者 目標指数：登録者数 目標値 令和3年度：20人 令和4年度：30人 令和5年度：40人	項目：介護予防サポーター養成研修 目標指数：開催回数（基礎、実践） 実績値 令和3年度：4回、3回 令和4年度：4回、3回 令和5年度：4回、3回 項目：介護予防サポータースキルアップ研修 目標指数：開催回数 実績値 令和3年度：1回 令和4年度：3回 令和5年度：3回 項目：介護予防サポーター登録者 目標指数：登録者数 実績値 令和3年度：52人 令和4年度：62人 令和5年度：76人	○	感染流行の状況に応じて感染対策の下、予定回数を実施することができた。 令和4年度から介護予防サポーター登録制度（介護予防サポーター自身の健康増進と介護予防を目的とし、地域で活躍できる方について）は、小学校区・佐伯市内全域など活動できる範囲等を確認し、任意登録申請書へ記載）を開始した。登録者数については初年度の目標を達成することができた。 また、登録介護予防サポーターと市の一般介護予防事業（通いの場等）とのマッチングを図ったが、コロナ禍の影響もあり件数は伸び悩んでいる状況にある。	介護予防サポーター養成研修【基礎講座】の受講者増加を図るため、地域の通いの場の代表者へ案内を通知（令和5年度：社協ふれあいいきいきサロン自主型）する等、より多くの人に参加してもらえる案内方法の工夫を行う。 令和6年度は、介護予防の普及啓発の充実を図る目的として、認知症サポーター養成講座と合同開催とし開催回数を増やした。左記の研修受講後は、希望で介護予防サポーターへ登録とし、スキルアップ研修などへつなぐ。 また社協ボランティアコーディネーターと協働し、介護予防サポーターの活動の幅を広げていく。
○住民主体の通いの場		年齢や心身の状況等によって高齢者を分け隔てることなく、誰でも一緒に参加することができる介護予防活動の地域展開を目指して、自主的に介護予防活動に取り組むための住民主体の通いの場を生活支援体制整備事業と連携して立ち上げ、運営するための支援を行います。また、各種通いの場に参加する高齢者の割合を令和7年度までに8%とすることを目指します。立ち上がった通いの場は短期集中予防サービスの卒業者の受け入れ先や地域ケア会議で把握した個別課題の解決等に活用します。	項目：住民主体の通いの場 目標指数：設置箇所 目標値 令和3年度：16箇所 令和4年度：21箇所 令和5年度：26箇所 項目：通いの場立ち上げ支援 目標指数：実施箇所数 目標値 令和3年度：5箇所 令和4年度：5箇所 令和5年度：5箇所 項目：通いの場フォローアップ 目標指数：実施箇所数 目標値 令和3年度：11箇所 令和4年度：16箇所 令和5年度：21箇所	項目：住民主体の通いの場 目標指数：設置箇所 実績値 令和3年度：10箇所（新規1） 令和4年度：8箇所 令和5年度：8箇所 項目：通いの場立ち上げ支援 目標指数：実施箇所数 実績値 令和3年度：2箇所（5回） 令和4年度：1箇所（1回） 令和5年度：0箇所（0回） 項目：通いの場フォローアップ 目標指数：実施箇所数 実績値 令和3年度：2箇所 令和4年度：2箇所（5回） 令和5年度：2箇所（2回）	△	通いの場の設置箇所数は前年度と比較して減少となった。 総合事業の卒業者から、新規に通いの場の立ち上げを希望する地域もあつたが、会場や人数等の課題から開設には繋がらなかった。	住民が主体的に運営しており、モニタリングも年1回程度としている。通いの場フォローアップ支援として、地域リハビリテーション活動支援事業を活用。 総合事業の卒業者の方向性をケアマネジメント支援会議で検討する際、社会資源の一つとして提案していく。また、同時に生活支援体制整備事業等へ繋いでいく。令和6年度は他の通いの場と同様、事業整理を行う。
【一般介護予防事業評価事業】 ○介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査		第9期介護保険事業計画策定のための介護予防・日常生活圏域ニーズ調査により、一般介護予防事業等の評価を行い、目標値の達成状況等を検証します。	項目：介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査 目標指数：調査回数 目標値 令和3年度：0回 令和4年度：1回 令和5年度：0回	項目：介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査 目標指数：調査回数 実績値 令和3年度：0回 令和4年度：1回 令和5年度：0回	○	実施予定年度以外のため実施なし。	実施予定年度以外のため実施なし。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名： 佐 伯 市

項 目	現状と課題	取 組	目 標	取組状況と実績	自己評価	次年度対応策	
【地域リハビリテーション活動支援事業】 ○専門職派遣事業		地域における介護予防の取組を強化するため、おげんき広場、住民主体の通いの場等での技術支援や助言等を行うためのリハビリテーション専門職等を派遣する事業を実施します。	項目：通いの場立ち上げ支援事業 目標指数：派遣回数（以下同様） 目標値 令和3年度：5回 令和4年度：5回 令和5年度：5回 項目：通いの場立ち上げ支援フォローアップ事業 目標値 令和3年度：5回 令和4年度：5回 令和5年度：5回 項目：通いの場フォローアップ支援事業 目標値 令和3年度：11回 令和4年度：16回 令和5年度：21回 項目：おげんき広場事業 目標値 令和3年度：6回 令和4年度：6回 令和5年度：6回 項目：おげんき広場意見交換会 目標値 令和3年度：1回 令和4年度：1回 令和5年度：1回 項目：介護事業所職員向け研修会 目標値 令和3年度：3回 令和4年度：3回 令和5年度：3回 項目：通所型サービス事業所技術支援 目標値 令和3年度：8回 令和4年度：8回 令和5年度：8回 項目：訪問型サービス事業所技術支援 目標値 令和3年度：5回 令和4年度：5回 令和5年度：5回 項目：さいきの茶の間派遣事業 目標値 令和3年度：0回 令和4年度：70回 令和5年度：75回	項目：通いの場立ち上げ支援事業 目標指数：派遣回数（以下同様） 実績値 令和3年度：2回 令和4年度：0回 令和5年度：0回 項目：通いの場立ち上げ支援フォローアップ事業 実績値 令和3年度：3回 令和4年度：2回 令和5年度：0回 項目：通いの場フォローアップ支援事業 実績値 令和3年度：4回 令和4年度：5回 令和5年度：2回 項目：おげんき広場事業 実績値 令和3年度：0回 令和4年度：2回 令和5年度：2回 項目：おげんき広場意見交換会 実績値 令和3年度：0回 令和4年度：1回 令和5年度：0回 項目：介護事業所職員向け研修会 実績値 令和3年度：0回 令和4年度：0回 令和5年度：0回 項目：通所型サービス事業所技術支援 実績値 令和3年度：0回 令和4年度：0回 令和5年度：1回 項目：訪問型サービス事業所技術支援 実績値 令和3年度：0回 令和4年度：0回 令和5年度：2回 項目：さいきの茶の間派遣事業 実績値 令和3年度：0回 令和4年度：4回 令和5年度：13回	△	感染対策のもと、事業継続した。令和4年度から通いの場（茶の間）の強化を目的として専門職の派遣を実施し体力測定等を行っており、専門職の派遣実績は令和3年度から増加しているが目標を下回っている。 南部地域リハビリテーション広域センターの支援を受け、人材育成の研修を開催した。	新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を見送っていた通所型・訪問型サービス事業所においても事業実施し、自立支援型サービスの推進を図る。 また、令和4年度から、通いの場（主に茶の間）の強化を目的として専門職の派遣を実施。令和6年度も令和5年度同様、通いの場におけるフレイルチェックの結果をもとに、優先的に派遣が必要な団体を選定し、派遣を実施していく。
【さいきの茶の間運営事業】		地域において家に閉じこもりがちな高齢者に対し、地域での生活の助長、社会的孤立感の解消、地域的交流、認知症の予防その他の介護予防等を図るため、さいきの茶の間事業に要する経費に対し、補助金を交付します。補助金は、会場の使用料や消耗品費用等として毎年度交付される運営補助金、新規に茶の間を立ち上げるための物品購入費や集会所の改修費等の開始補助金、他の茶の間との交流会に係る経費を補助する交流会補助金の3種類があります。また、令和4年度から、介護予防としての効果が高い健康体操や栄養、口腔指導などの講師の派遣を行います。なお、開始補助金については、令和3年度までは500,000 円以内とし、以後は、物品購入のみの場合は300,000 円以内、施設改修を伴う場合は400,000 円以内（ただし、物品購入は300,000 円が限度）とします。	項目：運営補助金 目標指数：茶の間実施数 目標値 令和3年度：65団体 令和4年度：70団体 令和5年度：75団体 項目：開始補助金 目標指数：茶の間開始数 目標値 令和3年度：5団体 令和4年度：5団体 令和5年度：5団体 項目：交流会補助金 目標指数：茶の間交流会開催数 目標値 令和3年度：2件 令和4年度：2件 令和5年度：2件 項目：講師派遣 目標指数：派遣回数 目標値 令和3年度：0件 令和4年度：70件 令和5年度：75件	項目：運営補助金 目標指数：茶の間実施数 実績値 令和3年度：60団体 令和4年度：58団体 令和5年度：60団体 項目：開始補助金 目標指数：茶の間開始数 実績値 令和3年度：1団体 令和4年度：1団体 令和5年度：5団体 項目：交流会補助金 目標指数：茶の間交流会開催数 実績値 令和3年度：0件 令和4年度：1件 令和5年度：0件 項目：講師派遣 目標指数：派遣回数 実績値 令和3年度：0件 令和4年度：19件（19団体） 令和5年度：11件（11団体）	△	令和5年度は、新規に5団体を立ち上げることができたが、休止も3団体となった。 また、介護予防活動として、希望団体へ出前教室を実施した。教室の中でフレイルチェックシートを活用し、運動・栄養・口腔機能等について優先的に専門職の派遣が必要な団体へ医療専門職の派遣を行った。フレイルチェックの個人結果をもとに、必要に応じて介護予防・生活支援サービスにつなげた。	引き続き感染症対策等を実施したうえで活動するよう啓発すると共に、介護予防に重点を置き、健康体操等の講師の派遣を行う。 令和6年度は、フレイルチェック未実施団体への実施依頼を強化するとともに、出前教室への参加等を促していく。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名： 佐 伯 市

項 目	現状と課題	取 組	目 標	取組状況と実績	自己評価		次年度対応策
【介護予防・生活支援サービス事業】 ○訪問型サービス 従来の介護予防訪問介護相当サービス	介護保険の理念に基づく「自立支援」を推進するため、介護予防に従事する介護支援専門員や介護サービス関係者の資質向上が求められています。そのためには地域の介護予防の拠点として、自立支援型サービスを提供する通所介護・訪問介護事業所等を育成しながら連携し、併せて効果的かつ効率的で多様な主体による介護予防サービスを実施することが重要です。	要支援者等の介護予防を目的として居宅において、生活不活発病（廃用症候群）等により上肢・下肢・体幹機能等の低下がある対象者に対し、訪問介護員等により生活機能の向上や生活支援を目的としたサービスを実施します。	項目：従来の介護予防訪問介護相当サービス 目標指数：利用実人数 目標値 令和3年度：400人 令和4年度：400人 令和5年度：400人	項目：従来の介護予防訪問介護相当サービス 目標指数：利用実人数 実績値 令和3年度：317人 令和4年度：269人 令和5年度：289人	△	事業実施事業所の減少（人員不足含む）等の影響により、利用実人数は目標値の72.25％にとどまった。	令和6年度は訪問・通所事業所へのモニタリング、アンケートの実施や協議の場を持ち、基準緩和型が必要なサービスか、また実施可能かについて再度検討を行う。 適正なマネジメントで対象者を抽出し、サービスへの繋ぎを図る。また、自立支援に向けた支援が提供できるよう、訪問型事業所へ専門職の派遣を行い、適正なサービスの提供ができるよう事業所への支援を行う。
緩和したサービスや住民ボランティア活動		介護職以外の担い手による生活援助（掃除、買い物等）を中心としたサービスを令和3年度から実施し、住民主体のサービスについては生活支援体制整備事業等と連携・調整しながら立ち上げ支援を実施します。	項目：訪問型サービスA（基準緩和） 目標指数：利用実人数 目標値 令和3年度：20人 令和4年度：20人 令和5年度：20人	項目：訪問型サービスA（基準緩和） 目標指数：利用実人数 実績値 令和3年度：0人 令和4年度：0人 令和5年度：0人			令和6年度は訪問・通所事業所へのモニタリング、アンケートの実施や協議の場を持ち、基準緩和型が必要なサービスか、また実施可能かについて再度検討を行う。
短期集中予防サービス		生活不活発病等により、介護予防の取組が必要と認められる者を対象に、保健・医療の専門職が訪問による評価を実施した上で、主に運動機能向上等の訓練中心とした、短期集中（3～6か月）サービスを実施します。合わせて、管理栄養士や歯科衛生士が定期的に指導を行う、栄養・口腔管理指導事業を実施します。	項目：ころばん訪問事業 目標指数：利用者数 目標値 令和3年度：200人 令和4年度：220人 令和5年度：250人 項目：栄養管理指導事業 目標指数：利用者数 目標値 令和3年度：50人 令和4年度：50人 令和5年度：50人 項目：口腔管理指導事業 目標指数：利用者数 目標値 令和3年度：20人 令和4年度：20人 令和5年度：20人	項目：ころばん訪問事業 目標指数：利用者数（実） 実績値 令和3年度：163人 令和4年度：151人 令和5年度：111人 項目：栄養管理指導事業 目標指数：利用者数（実） 実績値 令和3年度：33人 令和4年度：30人 令和5年度：13人 項目：口腔管理指導事業 目標指数：利用者数（実） 実績値 令和3年度：27人 令和4年度：12人 令和5年度：15人			短期集中サービス対象者のケアマネジメントによる拾い上げの課題に対し、一般介護予防事業におけるフレイルチェック等の結果をもとに、二次予防レベルの対象者を各種サービスにつなげる仕組みづくりに取り組み、利用者の増加を図る。
移動サービス		生活支援体制整備事業等と連携し、社会資源等を活用した介護予防・生活支援サービス事業と一体的に行われる移動支援・移送前後の生活支援サービスの立ち上げを目指します。	未設定	弥生地域で生活支援体制整備事業による移動支援の実証実験を行うこととなった。また、直川地域では社会福祉法人の連絡協議会を立ち上げ、移動支援の検討を行っている。なお、移送支援については、まだ総合事業の位置づけには至っていない。	○	県のモデル事業を活用し、移動支援に取り組んだ。モデル地区（弥生・直川）において移送支援ボランティアの立ち上げを図った。	令和6年度は、モデル地区（弥生・直川）において実証実験の開始後に実施を目指す。 また、総合事業でのサービス化も視野に入れた上で移送支援ボランティアの支援を行う。
○通所型サービス 従来の介護予防通所介護相当サービス		生活不活発病等により、上肢・下肢・体幹機能等の低下があり、日常生活動作が困難になった要支援者等の対象者に対し、運動機能、認知機能、口腔機能等の向上を目的としたサービスを実施します。	項目：従来の介護予防通所介護相当サービス 目標指数：利用実人数 目標値 令和3年度：200人 令和4年度：200人 令和5年度：200人	項目：従来の介護予防通所介護相当サービス 目標指数：利用実人数 実績値 令和3年度：528人 令和4年度：439人 令和5年度：502人			令和6年度は訪問・通所事業所へのモニタリング、アンケートの実施や協議の場を持ち、基準緩和型が必要なサービスか、また実施可能かについて再度検討を行う。
緩和したサービス又は住民ボランティア活動		短期集中予防サービスの事業効果を見つつ、卒業後の受け皿として指定事業者による緩和したサービスを令和3年度から実施し、住民主体のサービスについては、生活支援体制整備事業等と連携・調整しながら立ち上げ支援を実施します。	項目：通所型サービスA（基準緩和） 目標指数：利用実人数 目標値 令和3年度：420人 令和4年度：420人 令和5年度：420人	項目：通所型サービスA（基準緩和） 目標指数：利用実人数 実績値 令和3年度：0人 令和4年度：0人 令和5年度：0人			令和6年度は訪問・通所事業所へのモニタリング、アンケートの実施や協議の場を持ち、基準緩和型が必要なサービスか、また実施可能かについて再度検討を行う。
短期集中予防サービス		生活不活発病等により、介護予防の取組が必要と認められる者を対象に保健・医療の専門職が訪問による評価を実施した上で、主に運動機能向上等の訓練を中心とした、短期集中（3～6か月）サービスを実施します。	項目：ころばん事業 目標指数：利用実人数 目標値 令和3年度：200人 令和4年度：220人 令和5年度：250人	項目：ころばん事業 目標指数：利用実人数 実績値 令和3年度：171人 令和4年度：157人 令和5年度：111人	△	利用者数については年度途中から1事業所が中止となった影響もあり、前年度と比較して減少となった。対象者のケアマネジメントによる拾い上げのため、通いの場等を中心にSCと連携した取り組みを行った結果、一定の利用者確保につながった。また、圏域拡大を目指し、第2圏域での実施へ向けた働きかけを行い、1事業所の新規事業実施につなげることができた。	短期集中サービス対象者のケアマネジメントによる拾い上げの課題に対して、引き続き一般介護予防事業におけるフレイルチェック等の結果をもとに、二次予防レベルの対象者を各種サービスにつなげる仕組みづくりに取り組み、利用者の増加を図る。令和6年度から第2圏域において1事業所スタートを県のモデル事業を活用して支援する。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【自立支援、介護予防又は重度化防止】

市町村名： 佐 伯 市

項 目	現状と課題	取 組	目 標	取組状況と実績	自己評価		次年度対応策
○その他生活支援サービス 外出支援事業		要支援者の自立した日常生活の支援のため、訪問型サービスや通所型サービスと一体的に行う身体介助や、送迎を含まない散歩や買い物等の同行支援を行うサービスを実施します。	項目：外出支援サービス 目標指数：利用者数 目標値 令和3年度：5人 令和4年度：5人 令和5年度：5人	項目：外出支援サービス 目標指数：利用者数 実績値 令和3年度：8人 令和4年度：4人 令和5年度：4人	△	高齢者を外出支援事業に繋げることができるよう、ケアマネジメント実施者への周知に取り組んだが、利用者の増加には至らなかった。	課題を持つ高齢者を外出支援事業に繋げることができるよう、ケアマネジメント実施者への周知を引き続き徹底していく。 また、利用者が増加していないため、事業の課題などの検証を行う。
【高額介護予防サービス相当事業費】		総合事業のサービス利用に係る利用者負担の家計に与える影響を考慮し、高額介護予防サービス費相当事業等を実施します。	項目：高額介護予防サービス費相当事業 目標指数：申請件数 目標値 令和3年度：120件 令和4年度：120件 令和5年度：120件	項目：高額介護予防サービス費相当事業 目標指数：申請件数 実績値 令和3年度：75件 令和4年度：131件 令和5年度：171件		申請件数は目標値を達成することが出来た。申請がない方に対しては、ケアマネを通じた声掛け等を実施し、申請に結びつけることができた。	令和6年度以降も申請がない方に対しては、ケアマネを通じて声掛け等実施していく。
【介護予防ケアマネジメント事業】		高齢者が要支援・要介護状態となることを予防し、自立した生活を送ることができるように、心身の状態や置かれている環境等に応じて、適切な事業が包括的かつ効率的に提供されるよう必要な援助を行います。	項目：介護予防ケアマネジメント（※第1号介護予防支援事業） 目標指数：件数 目標値 令和3年度：6,627件 令和4年度：6,750件 令和5年度：6,902件	項目：介護予防ケアマネジメント（※第1号介護予防支援事業） 目標指数：件数 実績値 令和3年度：4,785件 令和4年度：4,152件 令和5年度：4,100件		当初予定していた基準緩和型サービスの立ち上げが延期された影響等によりマネジメント件数が目標値の59.4%に留まった。	令和6年度に基準緩和型などの再度検討の結果によって多様なサービス提供が必要となるため、サービスに応じたケアマネジメントの提供に努める。
【はり・きゅう・あんま施術料助成事業】		はり・きゅう・あんまの治療を必要とする70 歳以上の高齢者等に対して、年間12 枚（1 枚1,000 円）の施術料の助成を行うことにより、介護予防の推進を図り、高齢者等の負担を軽減します。	項目：はり・きゅう・あんま施術料助成 目標指数：助成人数、助成枚数 目標値 令和3年度：2000人、10,000枚 令和4年度：2000人、10,000枚 令和5年度：2000人、10,000枚	項目：はり・きゅう・あんま施術料助成 目標指数：助成人数、助成枚数 実績値 令和3年度：1,307人、8,264枚 令和4年度：1,315人、8,411枚 令和5年度：1,327人、8,432枚	○	市報等を通じて、事業の周知行った結果、目標値の約80%に対して助成を実施できた。	引き続き、市報等を通じて事業の周知に努める。

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート【介護給付の適正化】

市町村名： 佐 伯 市

項 目		現状と課題	取 組	目 標	取組状況と実績	自己評価		次年度対応策
要介護認定の適正化		高齢化の進展等に伴い、介護給付費が増加している中で、支援を必要とする方に適切なサービスが提供されるよう、介護給付の適正化を推進し、その結果、介護給付費や介護保険料の増大の抑制を図ることが、介護保険制度の持続可能性を高める観点からも重要です。このため、国の「介護給付適正化計画」に関する指針に基づき、要介護認定の適正	認定調査員の研修会を行い、調査員の資質向上を図り、高い精度を保ちます。また、介護認定審査会の審査員の研修会や役員会を行い、判断基準の統一及び適正な審査判定の徹底を行います。	項目：認定調査員研修会 目標指数：開催回数 目標値 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回	項目：認定調査員研修会 目標指数：開催回数 実績値 令和3年度：0回 令和4年度：3回 令和5年度：2回	○	定期的に業務に対する疑問点等を調査員から集約し、正規職員間で考察後、研修会を開催して認識の統一化を図ることが出来た。その他、適時職場内でのミーティング形式の勉強会や県主催の調査員現任研修への参加により調査員の資質向上を図ることができた。	今後も職場内研修会の開催や外部研修への参加を通じ、要介護認定の適正化を図る。
ケアプランの点検		化等介護給付適正化に係る主要5事業に取り組んでいます。	地域ケア会議を開催して自立支援型のケアプランの作成を促します。また、地域包括支援センターによる地域介護支援連絡会議・介護予防支援従事者研修会を開催し、介護支援専門員の資質向上や制度説明を行います。令和3年度より、点検業務を委託し調査対象件数を増やします。	項目：地域ケア会議 目標指数：開催回数 目標値 令和3年度：51回 令和4年度：56回 令和5年度：60回 項目：地域介護支援連絡会議 目標指数：開催回数 目標値 令和3年度：4回 令和4年度：4回 令和5年度：4回 項目：介護予防支援従事者研修会 目標指数：開催回数 目標値 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回 項目：ケアプラン点検 目標指数：件数 目標値 令和3年度：150件 令和4年度：150件 令和5年度：150件	項目：地域ケア会議 目標指数：開催回数 実績値 令和3年度：34回 令和4年度：43回 令和5年度：46回 項目：地域介護支援連絡会議 目標指数：開催回数 実績値 令和3年度：4回 令和4年度：4回 令和5年度：4回 項目：介護予防支援従事者研修会 目標指数：開催回数 実績値 令和3年度：2回 令和4年度：2回 令和5年度：2回 項目：ケアプラン点検 目標指数：件数 実績値 令和3年度：56件 令和4年度：78件 令和5年度：66件		地域ケア会議については、年間を通じて開催し、適切なケアプラン作成の促進を図ることができた。通常のケアプラン点検業務に加え、高齢者向け住まい等対策のケアプラン点検業務を専門業者へ委託し、資格者による書類のチェック及び計画作成担当者に対するヒアリング、点検結果のフィードバックを行うことにより介護支援専門員等の資質向上を図ることができた。	令和6年度についてもケア会議等の開催及び専門業者によるケアプラン点検を実施を通じて、適切なケアプラン作成による介護給付の適正化を図る。
住宅改修等の点検	住宅改修の点検	福祉用具の購入・貸与の点検	適正な住宅改修や福祉用具購入及び貸与を行うよう、事前事後の書類審査の徹底と必要に応じて現地確認等の調査を実施します。専門的知見を有する建築専門職、リハビリテーション専門職等による点検を行い給付の適正化を図ります。	項目：住宅改修の点検 目標指数：件数 目標値 令和3年度：10件 令和4年度：10件 令和5年度：10件	項目：住宅改修の点検 目標指数：件数 実績値 令和3年度：実地6件 令和4年度：実地1件、委託160件 令和5年度：実地0件、委託143件	○	専門業者による申請書類等の事後チェックを実施し、介護給付の適正化を図った。	令和6年度からは、一定の要件を満たす案件について専門業者による審査を導入することにより、介護給付の適正化を図る。
				項目：福祉用具の点検 目標指数：件数 目標値 令和3年度：10件 令和4年度：10件 令和5年度：10件	項目：福祉用具の点検 目標指数：件数 実績値 令和3年度：実地1件 令和4年度：実地3件、委託182件 令和5年度：実地0件、委託195件		専門業者による申請書類等の事後チェックを実施し、介護給付の適正化を図った。	令和6年度からは、一定の要件を満たす案件について専門業者による審査を導入することにより、介護給付の適正化を図る。
縦覧点検・医療情報との突合	縦覧点検	医療情報の突合	国保連合会への委託により、縦覧点検・医療情報との突合を行い、介護給付の適正化を図るとともに、ケアプラン点検に該当した居宅介護支援事業所に対し、ケアプランチェックを行うことで給付の適正化を図ります。	項目：縦覧点検 目標指数：件数 目標値 令和3年度：1,200件 令和4年度：1,200件 令和5年度：1,200件	項目：縦覧点検 目標指数：件数 実績値 令和3年度：2,899件 令和4年度：1,129件 令和5年度：602件	○	国保連合会及び専門業者に帳票の点検を委託し、過誤請求等の確認を行うことにより、介護給付の適正化を図った。	令和6年度も引き続き、国保連合会及び専門業者に帳票の点検を委託し、過誤請求等の確認を行うことにより、介護給付の適正化を図る。
				項目：医療情報との突合 目標指数：件数 目標値 令和3年度：90件 令和4年度：90件 令和5年度：90件	項目：医療情報との突合 目標指数：件数 実績値 令和3年度：29,711件 令和4年度：15,003件 令和5年度：15,431件		国保連合会に突合業務を委託し、過誤請求等の確認を行うことにより、介護給付の適正化を図った。	令和6年度も国保連合会に突合業務を委託し、過誤請求等の確認を行うことにより、介護給付の適正化を図る。
介護給付費通知			介護給付等の受給者に対し、介護サービスの利用状況や要した費用、また、負担する額等を記載した書面を通知し、当該受給者に当該事項の確認を促すことにより、介護給付等に要する費用の適正化を図ります。	項目：介護給付費通知の発送 目標指数：件数 目標値 令和3年度：1件 令和4年度：1件 令和5年度：1件	項目：介護給付費通知の発送 目標指数：件数（年間の利用実績） 実績値 令和3年度：1件 令和4年度：1件 令和5年度：1件	○	令和5年度は予定通り、令和5年1月～令和5年12月サービス利用分について給付費通知の送付を行い、受給者にサービス利用状況等の確認を促すことにより、介護給付の適正化を図った。	令和6年度は令和6年1月～令和6年12月サービス利用分について給付費通知の送付を行い、受給者にサービス利用状況等の確認を促すことにより、介護給付の適正化を図る。
給付実績を活用した適正化事業								
その他								